

二〇一四年二月二四日

緋毛氈床几に払ふ春の雪
春の雪工事現場の修羅隠す

菜々

満天

二〇一四年二月一三日

地に触れんばかりに枝垂れ梅匂ふ
虎落笛否豆腐屋の遠き笛
春泥に立ち往生やハイヒール

菜々

満天

よし子

二〇一四年二月二二日

下萌ゆるよちよち歩きできし子に

菜々

二〇一四年二月二一日

うすらいの揺らぎて岸を離れけり
蜷梅の匂ふ旧家のなまこ堀

ともえ

三刀

二〇一四年二月一〇日

工事場の轍ぐちやぐちや春の泥
寒林を礫のごとく鳥の翳

よし子

三刀

蜷梅の三分咲きとて香を放つ

あさこ

二〇一四年二月九日

下萌をとばしサッカーボール蹴る
遮断機の餌す峡の余寒かな

雅流

有香

先客の影の朧や露天風呂
よし子

下萌えに傾ぐ一碑は一里塚
菜々

競ふごと背伸びす風の花菜かな
ぼんこ

水温む鯉はジャンプを繰り返し
あさこ

薄雲を払ひてしるき寒オリオン
なつき

ホルスタイン模様に庭の雪間かな
こすもす

二〇一四年二月八日

沖波に見え隠れする浮寝鳥
さつき

毎日句会みのる選・二〇一四年二月一六日